

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和7年度7月号

○ 概要

- (1) 令和7年度7月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,361億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,838円（伸び率+5.1%）であった。（→P.1,2）
- 調剤医療費の内訳は、技術料が1,990億円（伸び率▲0.0%）、薬剤料が5,356億円（伸び率+1.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が975億円（伸び率+1.0%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,509円（伸び率+3.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.78種類（伸び率+1.0%）、28.7日（伸び率+4.5%）、69円（伸び率▲2.0%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,122億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲20億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の807億円（伸び幅+31億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+48億円（総額586億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,122 億円 (▲20 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(807 億円)	21 循環器官用薬 (593 億円)	42 腫瘍用薬 (586 億円)
0歳以上	16.8 億円	44 アレルギー用薬 (4.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.6 億円)
5歳未満	(▲2.0 億円)			
5歳以上	99.3 億円	44 アレルギー用薬 (30.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (29.9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(8.1 億円)
15歳未満	(▲0.8 億円)			
15歳以上	1,549 億円	39 その他の代謝性 医薬品(305 億円)	11 中枢神経系用薬 (291 億円)	42 腫瘍用薬 (192 億円)
65歳未満	(+8 億円)			
65歳以上	821 億円	39 その他の代謝性 医薬品(190 億円)	42 腫瘍用薬 (154 億円)	21 循環器官用薬 (131 億円)
75歳未満	(▲36 億円)			
75歳以上	1,636 億円 (+11 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(303 億円)	21 循環器官用薬 (285 億円)	42 腫瘍用薬 (236 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,838円（伸び率+5.1%）で、最も高かったのは高知県（11,687円（伸び率+4.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,659円（伸び率+7.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは滋賀県（伸び率+9.6%）、最も低かったのは山形県（伸び率+2.7%）であった。（→P.31～32）

««後発医薬品の使用状況について»»

【後発医薬品割合】(→P.39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.3 %	+5.0 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	78.0 %	+10.0 %
後発品調剤率	79.9 %	+0.4 %

注1) 【後発医薬品の数量】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

注2) 【後発医薬品の薬剤料】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料] + [後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.0 %	+13.9 % (10歳以上 15歳未満)	▲4.5 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.0 %	87.5 % (100歳以上)	65.4 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.3 %	93.8 % (100歳以上)	90.1 % (15歳以上 20歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	842 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (260 億円)	11 中枢神経系用薬 (152 億円)	23 消化器官用薬 (95 億円)
0歳以上	6.6 億円	44 アレルギー用薬 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳未満	(+0.2 億円)			
5歳以上	16.2 億円	44 アレルギー用薬 (9.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)
15歳未満	(+0.3 億円)			
15歳以上	291 億円	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (71 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65歳未満	(+3 億円)			
65歳以上	167 億円	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (19 億円)
75歳未満	(▲1 億円)			
75歳以上	362 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (125 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~59)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,303 円	1,695 円(北海道)	1,116 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.9%	+7.1 %(香川県)	+0.8 %(岩手県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.3 %	94.6 %(沖縄県)	88.8 %(東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.0 %	83.4 %(鹿児島県)	73.1 %(徳島県)
後発医薬品調剤率	79.9 %	83.5 %(沖縄県)	76.8 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。